



小学校教職員を対象に「エピペン」の使い方を教える研修で患児役を務める中川さん



社内の研修会で、石けんの泡立て方を実演しながらスキンケアの方法を分かりやすく説明する

薬局は社会全体に接点

「現在、アレルギー疾患は適切な治療を行えば上手くコントロールできたり、予防できたりする。そのためには患者や家族への指導、教育が重要。医師が短い診療時間で行う指導には限界があるし、専門医以外の医師が最新の知識を備えているわけではない。多職種が継続的に関わり、最新の正しい情報を伝えることが求められている」と中川さんは語る。

医療現場のなかで関わるのではなく、社会全体の中で患者や家族との接点を持つことも重要だ。「受診していないアレルギー患者も存在する。そのような患者に対しては薬局が、地域活動の一環として幅広く正しい知識を普及させる役割を担うことができる」。

15年に成立したアレルギー疾患対策基本法には「アレルギー疾患医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師、薬剤師、看護師その他の医療従事者の育成を図るために必要な施策を講ずる」と明記されている。同法を受けて今年

(12ページから続く) 保護者でよく見られるのが、ステロイドを忌避する傾向だ。副作用に関する正しい情報が伝わっていないために、過剰に警戒し使用を避けようとする。中川さんは、適切に使えばステロイドはいい薬であることや、減らす方法があることを保護者に伝える。最近、皮膚が荒れバリア機能が低下した状態が続くと、経皮感作によって食物アレルギーが引き起こされる可能性があることも分かってきた。保護者には、食物アレルギーを防ぐためにスキンケアが重要だと伝え、石けんの泡立て方を実演しながら、スキンケアの方法を分かりやすく説明している。

3月には基本指針が策定された。国全体で取り組みを進める機運が高まっている。小児アレルギーエデュケーターの資格取得者数は約400人。このうち薬剤師は50人だ。資格取得

のハードルは高く狭き門ではあるが、「薬剤師もこの資格取得を検討してみようか」と中川さんは呼びかける。医師が立ち上げた制度であるため専門医の認知度は高い。日本小児臨床アレルギー学

会には、職種の垣根を越えたスクリムクス型チーム医療の概念が根付いており、同じ仲間として和気藹々と情報交換しながら資質を高められるという。

ケータの活動を会社の業務としても実践できるようになった。中川さんは現在52歳。残りの薬剤師人生をどう過ごすかを日々強く意識している。そのひとつが、これまでの経験を現場の薬剤師に伝え、全体の質を向上させることだ。社内の研修会では講師を担当し最新のアレルギー情報の知識や技術の伝達に努めるほか、最近はやりの各薬局で薬剤師視点重視した症例検討会を開くよう後押しした。社会と広く接点を持つ小児アレルギーエデュケーターの経験を生かし、薬局の地域活動の実施を支援することも少なくないという。

中川さんは大学卒業後、奈良県の天理よろづ相談所病院に就職。89年から15年間、病院薬剤師として働いた。その中で一時期、小児科病棟を担当し小児アレルギー患者に関わった経験がある。その後小児アレルギーエデュケーターの資格を14年に取得したのは、当時共同で学会発表なども行い、仲が良かった小児科医の勧めがあったからだ。

病院勤務を経て04年には、薬局薬剤師に転身した。より長く患者と接する時間を持ちたいと考え、薬局を新たな職場に選んだ。

薬系大学講師の肩書きも

中川さんは近畿大学薬学部非常勤講師の肩書きも持っている。毎年9〜12月には20回以上大学に向き、4年生のOSCE前の学内実務実習でコミュニケーションなどの教育を担当。フィジカルシミュレータを活用しフィジカルアセスメントの方法を学生に教えたり、そこで得た情報を医師にどのようにフィードバックするのか、患者にどんな説明をするのかを、具体的な症例を題材に教えたりしている。

就職セミナーでも採用側の立場で薬学生と話す機会が多い中川さん。「薬学生は売り手市場でちやほやされている。就職セミナーなどで薬学生から『どんな研修があ

りますか』と聞かれることが多い。『自分こんなことがしたいが、この会社に入ったら実現できますか』と聞いてくる薬学生は少ない。自分がしたことに対してお金を支払われるのが社会人なのに『私に何をしてくれませんか』というのはベクトルが反対を向いている」と釘を刺す。

薬学生に向けて「薬剤師になつて何をしたいのかという目標を持ってほしい。薬剤師になつてからは、組織の中だけにどまらず積極的に外に出て行って刺激を受け、人脈を作ることも重要。目標の達成に向けて逆算で考えて行動してほしい」とエールを送る。

病院薬剤師を経て薬局に

中川さんは大学卒業後、奈良県の天理よろづ相談所病院に就職。89年から15年間、病院薬剤師として働いた。その中で一時期、小児科病棟を担当し小児アレルギー患者に関わった経験がある。その後小児アレルギーエデュケーターの資格を14年に取得したのは、当時共同で学会発表なども行い、仲が良かった小児科医の勧めがあったからだ。

病院勤務を経て04年には、薬局薬剤師に転身した。より長く患者と接する時間を持ちたいと考え、薬局を新たな職場に選んだ。

14年には現在勤めるファーマシーに転職。大阪、和歌山、奈良のエリア長として8薬局のマネジメン業務を担当している。各薬局が円滑に運営できるように導いたり、人事評価を行ったり、収支に目を配ったりするのが仕事だ。

ファーマシーの医療連携部にも所属。大学や行政などと連携した業務を展開したり、講演を行ったりして社会にアプローチし、会社のブランド構築にも役立てる部署の一員として、自身のライフワークでもある小児アレルギーエデュ

スマホやタブレットの中に入る参考書

ORANGEBOOK

2018年版 電子書籍版

いつでも、どこでも。 お財布にやさしい。 一発検索! 即表示!

今だけ特典 薬理1章 無料公開中!

第13章 感染症と薬

薬剤師国家試験対策予備校 Medisere SCHOOL

大阪校・神戸校・名古屋校・東京校・東京ベイ浦安校・仙台校

http://www.medisere.co.jp http://twitter.com/Medisere http://www.facebook.com/medisere

大阪校本部 〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町1-9 梅田ゲートタワー11F TEL: 06-6371-7711